

平成 28 年度  
(公財) 北海道サッカー協会 2 級審判員リフレッシュ研修会①報告書

報告者： 網走地区審判員 澤田 篤樹

日 時 : 平成 28 年 5 月 13 日 (金) ~ 5 月 15 日 (日)  
場 所 : 苫小牧市白鳥アイスアリーナ会議室 (講義・試合分析)  
          浜厚真野原サッカー場 (審判実技)  
宿泊場所 : ホテルウィングインターナショナル苫小牧  
研修内容 : 講義 テーマ【準備】  
          審判実技 【第 40 回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント北海道大会】  
講 師 : 三上正一郎 (1 級審判員) ・ 小宮圭示  
インストラクター : 沓澤整治 ・ 岡田 渉  
参加者(審判員): 荒上修人・工藤圭祐・板矢智志・藤本 哉・高橋健太・川合勇太  
                  二ノ宮僚介・伊藤大輔・澤田篤樹・丸山啓次・須藤和樹

※平成 28 年 5 月 13 日 (金) 19:00~20:30 会場: 苫小牧白鳥アイスアリーナ会議室

講義 テーマ 「準備」 講師 三上正一郎

1. 何のために準備をするのか? → 「良い試合」・「良いレフリング」をする為である。  
「良い試合」・「良いレフリング」について  
各自の考えを紙に書いて提出 → 全員の意見を掲示 → 結果、みんなの意見が違った。
  2. 「良い試合」・「良いレフリング」をするためには「試合をコントロール」することが必要となる。  
競技規則の精神【①安心・安全 ②公正・平等 ③楽しさ・面白さ】に基づいた準備が必要。
- ※ 1 の結果、人によって意見は異なり、準備で決まったものはない。各自、目的を持って何をするための準備なのかを明確にしないと、本当の「準備」はできない。
3. 「判定基準の準備とは?」について、2 グループに分け、グループで話し合い発表。
  4. 判定基準とは、下記事項に分類される。  
違反 → ルールを破る。  
反則 → 11 条・12 条を破る  
ファール → インプレー中、フィールド内で、競技者が・・・(第 12 条を破る)
  5. ファールについて  
間接フリーキック: GKに関する項目・その他競技者に関する項目  
直接フリーキック:  
3 項目→犯したら即反則となる。  
7 項目→行動や状況で見極めが必要→過剰な力・無謀・不用意→競技者の意図を見抜く
  6. 誰がファールを行うか?  
・ ボールキープ優先権のない、又はなくなりそうな競技者。  
・ 自分よりも有利な状況の相手を不利にさせようとする競技者。

## 7.意図を見抜く為に必要な項目

①プレーの方向 ②タイミング ③強さ ④スピード ⑤接触した部位（危険性）

※該当される項目数により、不用意・無謀・過剰な力を判断する。

※平成 28 年 5 月 14 日（土） 10：00～11：40 会場：浜厚真野原サッカー場

審判実技：「総理大臣杯」 : インストラクター 沓澤整治

\*釧路公立大 対 北海道科学大 (5：0) A2 担当

### 【 目 標 】

- ・主審とのアイコンタクト
- ・ニアサイドにボールがあるときの、フォワーサイドのオフサイドラインの監視。

### 【 反 省 】

- ・A2 サイドでファールがあったとき、旗を上げられない場面があった。
- ・DF の最終ラインの上げ下げがとても速く、ラインキープが大変だったので、もっと瞬発力の強化が必要と思った。

試合分析：18：00～19：10 会場：苫小牧市白鳥アイスアリーナ会議室

- ・各担当ごとに、試合結果、自己分析を発表。

### 【指摘事項】

- ・警告、退場があった場合、アシスタントとしての自己分析もしておくこと。

講義 : 19：20～20：00 会場：苫小牧市白鳥アイスアリーナ会議室

テーマ 「準備」 講師 小宮圭示

- 1.競技場の点検について、重要ポイントとその点検方法をパワーポイントにより詳細説明。
- 2.打ち合わせについては、各担当の任務を確認し出来るだけ時間を短縮して行うようにする。
- 3.ゲームプランについて
  - ・両チームの情報（特徴、戦術など）を収集し、ゲームプランについて準備する。
  - ・ゲームコントロールは、ゲーム中の情報収集が必要となる。

※平成 28 年 5 月 15 日（日）10：00～11：40 会場：浜厚真野原サッカー場

審判実技：「総理大臣杯」 : インストラクター 沓澤整治

\*北海道医療大 対 教育大釧路 (4：3) 主審担当

#### 【 目 標 】

- ・オフサイドの見落としがないように、A1、A2 を背負わないことと、プレーに巻き込まれないようなポジショニングを意識する。
- ・アフターファールの監視。
- ・全体を見渡し、監視する。
- ・ボールの管理をしっかりとする。

#### 【 反 省 】

- ・試合開始早々に、教育大釧路の選手が倒れていた。原因がわからず見逃しがあった。  
(選手に聞くと、アフターファールを受けて倒れたらしい。A2 に確認するも見逃していた。  
ハーフタイムの時に A1・第 4 審に確認したが、誰も確認していなかった。)
- ・前半にファールの差し違いがあった。
- ・後半の中盤ころに右足のふくらはぎがつって集中力が欠けてきたので、もっと持久力をつけなくてはならないと思った。

#### 【 指摘事項 】

- ・よりプレーの近いところでの監視が必要です。
- ・ゴール前でのフリーキックの時のポジションリングは、もっと焦点を定めより近づくこと。
- ・予測した動きと、小さな動きをもっと取り得ましょう。

#### 【全体を通しての感想】

今回の研修会には、20 歳前半の審判員が 6 名いたのですが、みんなサッカー選手としての活動を辞め、審判活動一筋に頑張っていることに感動しました。又、各自目標が高く技術もすばらしかったです。自分自身、見習うところも多々ありました。今後の彼らの活躍を期待しております。このような人達と一緒に活動することにより影響を受け、ポジティブな思考にもなりました。前回の上申試験の時とは異なり、審判員全員でいろんな話ができレベルアップはもちろんの事、精神的にも向上することができ、有意義な研修会になりました。機会があれば是非また参加したいと思っております。又、この研修会で得たことをより多くの地元審判員に伝えたいと思います。研修会に参加させて頂きありがとうございました。